

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 水野賀績
 幹事 小山雅弘
 会報委員長 長門保明

No. 20

友達になろう BE A FRIEND

1994～95年度 RI会長 ビル・H・ハンドレー

きょうの例会

第597回 平成6年12月6日(火)

講演 “一隅を照らす”

会員 舎人 経昭君

先週の記録

第596回 平成6年11月29日(火)晴

◇ “それでこそロータリー”

◇ ビジター紹介 3名

◇ 出席報告

会員 70名 出席 59名

出席率 84.29%

前回 11月22日(修正出席率) 97.10%

◇ ニコボックス

秋山 茂則君 加藤大豊さん先日は有難うございました。

鴨鹿食べ元気もりもりニコボックス
早退させていただきます。

林 淳三君 西村さんお世話になりました。

池田 隆君 しばらく御無沙汰しました。

石黒 正則君 家族会皆様の御協力で無事終らせて頂きました。吉田敬岳君の温かいお言葉も心に残りました。本当に有難うございました。

伊豫田博明君 母の葬儀には多数の弔問を頂きありがとうございます。

小杉 啓彰君 吉田君お世話になりました。

三輪 康君 ホームクラブご無沙汰しております。

水野 民也君 先週の火曜日はいろいろとお世話になりました。

西村 禎二君 社会奉仕表彰の皆様をお迎えして。西野委員長何かと有難うございました。

西野 英樹君 優良警察官、優良法務事務官6人の方をお迎えして。

鷺谷 龍男君 日中友好のかけ橋として「千

人の交響曲」をやります。94年1月14日芸術大ホールです。(後で説明いたします)

鈴木 正男君 吉田敬岳君、小杉君、石黒君 家族会色々お世話になり有難うございました。

去る11月20日母の葬儀に際しましては、多くの会員皆様にご会葬賜わり、誠に有難うございました。又事務局には大変お世話になりました。併せて心より厚く御礼を申し上げます。田部井良和君 家族会参加できず残念でした。竹内 眞三君 パートナーに恵まれてヨメさんがロータリーゴルフで優勝させて頂きました。上野 保君 加藤大豊さん先日は有難うございました。

鴨鹿食べ元気もりもりニコボックス

和田 正敏君 寒くなりました。池田さん元気に出席おめでとう。

吉田 敬岳君 ご縁をいただいてロータリーの皆さんを長谷寺にご案内することができました。親睦委員の皆様おつかれさまでした。釜谷 健一君、河村 政孝君、菊池 昭元君、三好 親君、永井 正義君 少し寒くなりました。

小山 雅弘君、長門 保明君、中山 信夫君、成田 良治君、奥村登喜朗君、佐久間良治君、笹野 義春君、鈴木 理之君、舎人 経昭君、渡辺 辰夫君 吉田敬岳君、小杉君、石黒君、家族会色々お世話になり有難うございました。

◇ 小山幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催いたしますので理事役員の方は2F橋の間にお集まり下さい。

2. 次回例会終了後、年次総会を開催いたしますので、全員そのままお残り下さい。

◇ バナー紹介

ブラッセル北RC 吉田 敬岳君

◇ 鈴木正男君挨拶

葬儀にあたりましてお忙しい所、また休日にもかかわらずたくさんの方に会葬賜わり、誠に有難うございました。心より厚く御礼申し

上げます。

◇伊豫田博明君挨拶

葬儀の際、会長、幹事をはじめたくさんの皆様に会葬して頂き誠に有難うございました。

◇鷺谷君音楽会の案内

“千人の交響曲”を当社開局20周年記念特別企画として、来年1/14芸術大ホールにて演奏、大合唱致します。スケールの大きい、壮大なものです。ぜひ皆様芸術大ホールに足をお運び下さい。

これを機に音楽を愛する会をつくりたいと大口君と考えています。よろしくご協力の程お願い申し上げます。

◇西野社会奉仕委員長挨拶

社会奉仕委員会の事業の1つに警察署及び拘置所の協賛があります。それに伴い本日、警察署3名の方並びに拘置所3名の方に、日頃の労を感謝すると共に表彰を行います。

◇名古屋拘置所優秀法務事務官

千種警察署優秀警察官表彰

賞状及び記念品贈呈



・名古屋拘置所

役職名	氏名	官職
主任矯正処遇官	松岡 強	副看守長
矯正処遇官	稲垣 邦孝	副看守長
矯正処遇官	井上 敏生	看守部長

・千種警察署

所属部署	氏名	官職
地域課	阪口 仁見	警部補
交通課	古後 勝利	巡査部長
生活安全課	柴田 茂幸	巡査部長

以上敬称略

◇水野(賀)会長挨拶

一昨日は、真言宗豊山派の総本山長谷寺の参詣と紅葉狩りの秋季家族会を行いました。多数の会員、御夫人、御家族の御参加をいただき、大変楽しい一日を過ごさせていただきました。

- ・きめ細かな配慮と十二分なアルコールを供給してくれた親睦委員の皆さんに
- ・本山長谷寺について、一時間に及ぶ講義と解説しながら境内を案内してくれた吉田敬岳君に
- ・添乗員に下見をさせてまで、気配りをしてく

れた小杉啓彰君に

改めてお礼を申し上げます。

今日は、先程紹介のありました6名の方々(千種警察署3名、名古屋拘置所3名)を表彰させていただきました。日頃の御芳苦に御礼を申し上げ、益々御健勝で活躍されること御期待申し上げます。

“日本の治安は世界一”ということは、日本人の常識でありましたし、外国旅行から帰ってくるたびに、日本の治安の良さを実感しておりました。ところが最近はややしくなっておりませんでした。

大阪府だけでも今年に入って20件を超える発砲事件がありましたし、千葉県でも15件の発砲事件があり、誠に昨年の3倍の件数になったということでもあります。

身近なところでは、この千種区内で銀行の支店長が射殺された事件があり、まだ解決されていない現状であります。

全国では今年だけで230件を超える発砲事件が報告され、その内訳も、暴力団関係者だけでなく、一般市民を巻き込んだものだと云われています。

国際化が重要な時代ではありますが、銃砲と麻薬の国際化だけは、何となくい止めてもらいたいものであります。

◇講演

“刑務官生活24年”

名古屋拘置所 矯正処遇官 副看守長

稲垣 邦孝氏



本日、伝統ある名古屋千種ロータリークラブに御招待いただき、またただいま身に余る表彰状まで賜り誠に光榮に存じますとともに厚く御礼申し上げます。

僭越ではございますが、私の経歴ならびに職務等を紹介させていただき御挨拶とさせていただきます。

出身は、北陸富山です。

ご存じのとおり北は日本海、南は北アルプスと自然に恵まれた故郷です。

高校を卒業までの18年間富山で過ごし、昭和45年4月1日名古屋拘置所管理部保安課に看守として採用され、以後、昼夜勤務、警備隊、交代勤務、出廷係、管轄担当を経て、昭

和60年3月16日付けて看守部長に昇任、半田拘置支所の勤務を3年経験したのち、再び名古屋拘置所勤務を命ぜられ、本年4月副看守長に昇進し、現在未決第3処遇係として勤務しております。

未決第3処遇係は、主に初犯である男子未決被收容者及び女子被收容者、外国人被收容者の処遇を行なっています。近年、外国人被收容者の増加が著しく、その犯罪傾向も以前の窃盗、難民法違反等のようなものから、強盗、殺人といった凶悪犯罪の増加が目立っており、それも、不法就業中に犯罪を犯すといった事犯が多発しています。

これらの外国人被收容者を国籍別に見ますと、東南アジア、中近東の者が大半を占めております。

私どもが、外国人被收容者を処遇するに当たって苦労しますのは、言葉の問題、生活習慣の違い、特に宗教上の問題などがあげられますが、信仰する宗教により食事の中身まで心配しなければならないことは、さまざまな人を集団生活させる施設にとっても本当に大変なことです。

面会時の片言の日本語はまだしも、手紙など外部のボランティアに翻訳を委託したりと4・5年前では考えられなかった業務が増加しています。

自国の司法制度や行刑制度から、わが国の刑事施設に收容されると、死刑になったり、虐待されるのではないかと心情不安定になって予測できない行動に走ったりする慮がままあります。そのような時、不自由な会話を通じて係が懸命になって理解させるわけです。

厳しい現実ではありますが、これも国際化する日本社会の一面であろうと考えられますし、ごく小さな場面にすぎませんが、国際貢献の一端を担っているのだと自分に言い聞かせ今後も頑張って行く所存です。

とりとめない話に終わってしまいました。今後とも、私どもの矯正業務により一層の御理解を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶と御礼の言葉とさせていただきます。

“女性交番所長としての一日”

千種警察署 地域課 本山交番所長

阪口 仁見さん



皆様今日は、只今ご紹介いただきました阪口でございます。どうぞよろしくお願いたします。

先ず自己紹介をさせていただきますが、私は本州の最南端の串本節にもあります和歌山県新宮市の新宮高校に学び、伊勢湾台風のあった翌年に名古屋に参りました。

警察官になったのは、中学時代から習った合気道を生かし、少年補導とか何か社会の役に立つ仕事が良いと考え、受験しました。

さて、皆様に改めてお知らせしたいことは、本年7月1日から警察法が改正され、地域の生活安全センターの機能を果たしている「派出所」については、皆様の中に定着し、国際的にもよく知られている「交番」という名称で、11月1日から言うことになり、市民と警察が「交流する、ふれあう」所として、交番の機能を十分に果し、より一層皆様のお役に立つよう努力しています。

昨今の社会情勢からくる犯罪も多様化し、ピストルを使用した犯罪やひったくり、恐喝などこれから年末にかけて起こりうる事案をどう防ごうかといろんな手を考えているのですが、何分にも交番の勤務員数は限られており、交通事故や110番通報の対応に出ていますと、仲々満足に機能することができません。そこで皆様のお力をお借りして、地域ぐるみの地域安全活動を推進し、自分達のまわりから安心して住みやすい街づくりをしたいと思っております。これからも「交番」を地域の拠点としてご活用いただき、こまりと相談にも微力ではございますが受けさせていただいております。そのように思いやりのある優しい地域社会づくりに努めておりますが、何事も一つ一つかたづけしていけば、いずれクリーンな状態を保つことができると信じ、今後とも皆様のご協力をお願いし、本日表彰をいただいたことを忘れずに、努力いたしますので、どうぞよろしくお願致します

◇RIニュースより

ロータリー月間にビル・ハントレー会長からのメッセージ

78年間、ロータリー財団は、世界中に奉仕の灯をかざし悲惨、苦痛、飢餓という暗黒を退け、希望と理解の道を輝かせ続けてきました。

11月は、ロータリー財団月間です。この月間中、私たちは、ロータリー財団のどの奉仕活動が世界理解という目標を推進し、世界各地に意義深い影響を与えたか一つ、友達になろう、を実践できるか、その方法を検討する機会をもちます。

あなたがロータリー財団の各種プログラムを検討すると、各プログラムがどのように多

様であっても、すべてが社会への思いやりにおいて全体として密接な関連があるのがすぐ分かります。実際のところ、私たちの財団プログラムには2倍のメリットがあると言ってもよいでしょう。援助を受ける人に役立つばかりでなく、援助をする側にもためになり、充足感を与えます。

財団では、奉仕を広げる方策を提供するだけでなく、分かりやすい奉仕をします。アイディアそれ自体は食料ではありません。本がパンの代わりにはなりません。夢で空腹を満たせはしないでしょう。援助にスローガンは不要です。

今日、世界は、急速に変化しています。財団はその変化に追い付いていますか？財団プログラムは、今日の世界のニーズを反映しているでしょうか？さらに、財団プログラムは、世界のロータリアンの気持や心をとらえていますか？

過去は過ぎ去るものなのに、過去にしがみついていて、存続できる組織などないということを決して忘れないで下さい。私としては、シェア・システムによる改正で変化し続ける世界に足並みを揃えることができる、と信じています。

ミケランジェロは、かつて、路傍で働き、大理石のブロックを切り取り、彫像を制作していました。道行く人が、製作中のミケランジェロを見て、何ができるか想像も付かず、何をしようとしているのかと尋ねました。偉大な彫刻家は答えました。「私は、この大理石のブロックに閉じ込められている天使を解き放そうとしているのです。」

お分かりと思いますが、どのプログラムを支援しようとも、どのプロジェクトを支援しようとも、それは、人々の理解を深めることに貢献しているのです。この国を訪問中の奨学生と握手をするとき、村落に食糧を供給するとき、目の不自由な人に光を取り戻させるとき、GSEチームを派遣するとき、私たちは、平和に積極的に貢献しているのです。このようにして、ロータリー財団という大理石に閉じ込められている天使を解き放っているのです。魔法の解決策もないし、突然の発見もない、ということ私たちは知っています。しかし、私たちは、誤解と不信という境界を取り除こうとしています。

私は、タイにいたときのことが忘れられません。そのとき、私は、生まれたばかりの孤児を抱えました。これから、人生をスタートさせようという、その前に、この子は、捨てられてしまったのです。その小さな顔を見ました。そして、これは、おびえている顔、戦

争と破壊にうちひしがれた顔だと思いました。また、無知の顔だと思いました。このような顔をつくったのは、この世界なのだと思いました。丁度そのとき、この子が私を見て、ほほえんだのです。ご存じのように、ロータリー財団は、食糧も衣料も提供します。3-H補助金が、村落の再建を援助し、村落は見違えるようになりました。私が再び見たとき、私は、平和を、信頼を、愛を見ました。

しかし、結局、これらのプログラムは、財団の活動の一端にすぎません。プログラムが本当のロータリー財団ではありません。皆さまが財団なのです。皆さまは、戦争で引き裂かれたレバノンで、ポリオを撲滅し、ウガンダでは母親が乳児を育てられるようにし、僻村の高齢者に人間としての品位を取り戻させ、フィジーに避難所を建てました。これは、皆さまが実施してきたことなのです。

これらは、人々と人々をつなぐ行為、世代と世代をつなぐ行為なのです。大理石から天使を解き放つのは皆さまです。

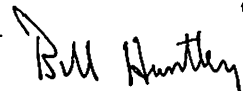
1人では、何もできないなどと言わないで下さい。みんなで外へ出て、ボランティアになることはできません。でもボランティアを支援することはできるのです。ワクチンを投与するとき、みんなでその場に立ち会うことはできません。しかし、私たちの寄付があったればこそ、ワクチンを投与できるのです。皆さまが財団なのです。天使を解き放つのは皆さまです。

私たちには人類に奉仕した78年の歴史があります。私たちはそれを誇りにできます。そうです。皆さまは、皆さまの財団を誇りにすることができます。将来、どれだけのことができるか想像もできません。

ロータリー財団を通じて、私たちは、すべての人々の本当の友達になることができます。周知のように、飢餓には国境はなく、誰でも病にかかるのです。戦争も革命も人間のことを考えていません。ですが、ロータリー財団を通じて、思いやりある世界、優しい世界、希望と愛情あふれる世界を築くことができるのを私は知っています。

敬具

ビル・ハントレー



◇次回例会（12月13日）

講演“外国人から見た日本人の将来”

南山大学 学長

ハンス・ユーゲン・マルクス（紹介 塩澤君）